

瀬田川におけるチャネルキャットフィッシュの産卵期の行動

臼杵 崇広

1. 目的

近年、瀬田川でチャネルキャットフィッシュが急増し、琵琶湖でも増加の兆候がみられる。今後、分布域の拡大が危惧されることから早急な対策が必要である。そこで、効率的な駆除技術を開発するため、本種の瀬田川における産卵期の行動に関する知見を収集した。

2. 方法

近畿大学の協力を得て、電波式発信機（LT-03-1 サーキットデザイン株式会社製）を装着した本種成魚5尾（表1）の行動を平成29年6月2日から7月27日にかけておよそ週に1回の頻度でアンテナ（LA-03 同社製）を接続したレシーバー（LR-03 同社製）により追跡した。

3. 結果

その結果、期間中継続してではないものの5個体全てで電波を捕捉することができた。そのうち一個体（ch5）では6月16日から7月27日にかけておよそ40日間にわたり一定水域内に留まるようすが観察された（図1）。この水域は、隙間も見られるブロック底であり（写真1）、この周辺を産卵場あるいは生息拠点にしているものと考えられた。

今後は、産卵場を特定し、さらに駆除につながる知見を収集して、そのデータを基に効率的な駆除技術を検討していく必要がある。

表1 供試魚

ch No.	放流日	体長(cm)	体重(g)
ch1	H29.4.12	43.0	1,286
ch2	H29.5.8	43.5	1,236
ch3	H29.5.17	55.0	3,715
ch4	H29.5.17	49.0	2,735
ch5	H29.5.23	53.0	2,474



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp>)
上記データをもとに滋賀県が作成

図2 ch5の捕獲地点の推移



写真1 ch5が長期間とどまっていた水域周辺